

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
66	杏林大学	国際政治学A	渡辺 剛 総合政策学部 教授	2	春	金	15	10:40～12:10	杏林大学 井の頭キャンパス	若干名

【到達目標】

単純な好悪の感情、闇雲な好戦主義や理想主義的平和主義ではなく、冷静且つ客観的に戦争と安全保障の問題を理解できるようになることが第一の目標である。また、既に軍事問題に関心のある学生諸君に於いては、単なる軍事マニア的な視点ではなく、国際関係の広い視野で軍事問題を捉えることも心がけられたい。

【授業の概要】

国際政治学／国際政治学 I において習得した国際政治・国際関係に関する基本的な知識を踏まえて、その応用編として軍事・安全保障の側面から国際政治を分析する。

【授業内容】

※当初の予定は以下の通りであるが、受講者のレベルやリクエスト、その時々のカレントな国際問題に応じて、開講後に構成が変わり得る事を予め承知されたい。

- 第 1 回 ガイダンスとイントロダクション：本講義開始に当たっての基本的な情報提供と注意喚起を行う。また、学期開始時点での講義計画の修正と見直しについても説明する。[講義・質疑応答]
- 第 2 回 国際社会の形成と国際政治学：国際社会の基本構造と国際政治学の成り立ちについて概説する。[講義・質疑応答]
- 第 3 回 主権国家と国民国家の基礎概念：国際社会の基本単位である主権国家の基本概念と歴的背景について説明する。また、近代国民国家と国民、ナショナリズムについても説明する。[講義・質疑応答]
- 第 4 回 古典的リアリズム 1：国際政治学の基本学説たる現実主義・リアリズム学派の思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。[講義・質疑応答]
- 第 5 回 古典的リアリズム 2：古典的リアリズム 1 に引き続き、現実主義・リアリズム学派の思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。[講義・質疑応答]
- 第 6 回 ネオリアリズム 1：古典的リアリズムを改良・精緻化したネオリアリズムの思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。[講義・質疑応答]
- 第 7 回 ネオリアリズム 2：ネオリアリズム 1 に引き続き、ネオリアリズムの思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。[講義・質疑応答]
- 第 8 回 小テスト 1：学期前半の内容について所要時間 1 時間少々の小テストを実施する。[小テスト]
- 第 9 回 リベラリズム 1：現実主義・リアリズム学派と並ぶ国際政治学二大潮流の一つである理想主義・リベラリズム学派の思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。[講義・質疑応答]
- 第 10 回 ネオリベラリズム 1：リベラリズムを改良・精緻化したネオリアリズムの思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。[講義・質疑応答]
- 第 11 回 構造主義：国際政治学二大潮流とは全く異なる角度から世界を捉えるマルクス主義的な構造主義学派の思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。[講義・質疑応答]
- 第 12 回 構築主義と英国学派：近年の比較的新しい理論的選択肢として登場した構築主義学派と英国学派について、思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。[講義・質疑応答]
- 第 13 回 外交政策決定過程：外交政策の決定過程に関する古典理論を紹介する。[講義・質疑応答]
- 第 14 回 小テスト 2：学期後半の内容について所要時間 1 時間少々の小テストを実施する。[小テスト]
- 第 15 回 総括：期末試験に向けて、今学期の講義全体を総括し疑問点を受付ける。また、今までの小テストの結果についての説明を行う。[質疑応答]

*課題に対するフィードバックの方法：毎回授業の始めに前回の課題についてフィードバックを行う。

【成績評価方法】

学期末の筆記試験(100%)に、平常点(授業への参加姿勢や小テストと課題)を加味して評価する。
試験は持込不可とする。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書、教材等】

講義中に適宜紹介する。

※ この授業は、4/7(金)が初回です。